

平成31年度

奈良県公立高等学校入学者特色選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には，受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには，何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

(稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』による)

(一) Aの片仮名を漢字で書き、 Bの漢字の読みを平仮名で書け。

(二) 線①と筆者が述べるのは、雑草に対して何を感じていたからか。文章中から抜き出して書け。

(三) 線②とは、どのようなことをたとえたものか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 友人と張り合うために行動したものの、友人に及ばないと気づかされたこと。

イ 友人にそのかさされるまま考えずに行動したために、失敗してしまったこと。

ウ 友人のカッコいい成功体験に憧れて行動した結果、夢の実現につながったこと。

エ 友人の話聞いて安易に行動したが、期待していた結果を得られなかったこと。

(四) 線③とはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 熱弁に心を打たれて尊敬の念を抱いたこと。

イ 熱弁に圧倒されて混乱してしまったこと。

ウ 熱弁にひきつけられてその気になったこと。

エ 熱弁に勇気づけられて自信がついたこと。

(五) 線④と筆者が思うのはなぜか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。なお、「名伯楽」とは「優れた指導者」のことである。

ア 指導教官が厳しい態度で接してくれたことで、自然から学ぶことの方が正しいと考えるようになったから。

イ 指導教官が答えを教えてくれなかったことで、興味や関心が喚起されて自分から学ぶようになったから。

ウ 指導教官が強く突き放してくれたことで、反骨精神をもって粘り強く課題に取り組むようになったから。

エ 指導教官が解決方法の概要すら教えてくれなかったことで、失敗からも学べると思えるようになったから。

(六) 線⑤とあるが、筆者はどのようなことに感動したのか。三十字以内で書け。

(七) 筆者は、この文章より前の部分で、自分のこれまでの人生を振り返って次の 内のように述べている。これを読み、後の問いに答えよ。

この部分については
著作権により公表できません

筆者が研究室でイグサを観察していたときの「みちくさ」に当たる部分分を文章中から十五字以内で抜き出し、「……こと」に続くように書け。

(八) 線部を全体の調和を考え、楷書で、一行で丁寧に書け。

(九) あなたが興味をもち調べてみたいことと、それを調べてみたいと考える理由を、合わせて八十文字以内で書け。

二

陽一さんのクラスでは、国語科の授業で、社会生活とつながりのある体験について二分間程度のスピーチをすることになった。陽一さんは、自分の成長を友達に伝えるために、「職場体験」を話題に取り上げて、「スピーチメモ」を作った。これを読み、各問いに答えよ。

【スピーチメモ】

初め	○話題の提示	・ 職場体験の時期、日数、場所 ・ 自分が行った仕事の内容
中	○印象に残った出来事	・ 仕事の中で失敗したこと ・ 工場の人にほめてもらったこと
終わり	○まとめ	・ ()

(一) スピーチの中で、仕事をしている様子をわかりやすく説明するために用いる資料として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 写真 イ グラフ ウ 地図 エ 本

(二) 陽一さんがこのスピーチの目的を果たすために、【スピーチメモ】の() に入れる内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 職場体験の時期や日数についての検証
イ 他の職場体験と比較して気づいたこと
ウ 職場体験での経験を通して学んだこと
エ 職場体験でお世話になった方へのお礼

(三) 次の()内は、実際に行ったスピーチの一文である。これを読み、後の各問いに答えよ。

職場体験の最終日に、工場の人から、「最初はぎこちなかったけれど、仕事をする姿が()^① ()^② についてきたね。三日間集中してよくがんばった。」という言葉をもらいました。

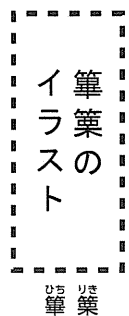
三

(1) 線①が慣用語となるように、()に当てはまる漢字一字を書け。

(2) 線②を適切な敬語に直して書け。

次の文章は、平安時代中期の雅楽家である源博雅の話である。源博雅の家に盗人が入り、博雅は板の間の下に逃げ隠れた。文章はそれに続く部分である。これを読み、各問いに答えよ。

盗人帰り、さて後、はひ出でて家中を見るに、のこりたる物なく、みなとりてけり。筆^{ひち}一^りつを置物厨子^{ちやくし}にのこしたりけるを、三位^{さんみ}とりてふかれりけるを、出でてざりぬる盗人^{りま}はるかにこれ^①を聞きて、感情おさへがたくして帰^{かへ}りきたりて云ふやう、「只^{ただいま}今の御筆^{ごひつ}の音をうけたまはるに、あはれにたふとく候^{まう}ひて、悪心^{あくしん}みなあらたまりぬ。とる所の物どもことごとくに返^{かへ}したてまつるべし。」といひて、みな置きて出でにけり。むかしの盗人^③は、またかく優なる心もありけり。



(注) 置物厨子||物を置くための棚 三位||源博雅

〔古今著聞集〕による

(一) 線A～Cのうち、意味が他と異なるものを一つ選び、その記号を書け。

(二) 線①とは何か。文章中から一字で抜き出して書け。

(三) 線②を現代仮名遣いに直して書け。

(四) 線③とは、どのような心か。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 慎重に判断しようとする心 イ 友情を大切にすること
ウ 思うままに行動しようとする心 エ 趣や美しさを理解すること